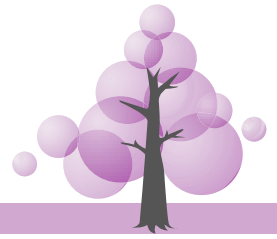


男女共同参画ひろば いっぱいっぼ

市では「富士見市男女共同参画推進条例」を制定し、性別にかかわらず、個人の能力が尊重される社会をめざして“いっぱいっぼ”取り組みを進めています。

問合せ／人権・市民相談課 ☎273



男女共同参画キーワード

もっと自由に、自分の人生を楽しもう！

現代社会は、職業、食べ物、レジャーなどさまざまな分野で多様化が進んでいます。一人ひとりが異なるライフスタイルで生活する中で、男らしさ、女らしさのあり方も変化しており、男性の家事や料理に関する特集誌や働く女性向けのセミナーなども増えています。多様なライフスタイルの中で、人との違いを受け入れて個性を尊重することが、人生を楽しむ最大のポイントになっています。

男らしさや女らしさ

男らしさや女らしさは身なりやしぐさ、言葉遣いなどによって分けられていますが、これは体のつくりや機能という特徴からみた男女の違いとは何ら関係がありません。最近は家事メン（家事をする男性）や山ガール（登山をする女性）などが増えているように、いろいろな分野で趣味や生活を楽しむ人が増え、性別に関係なく多くの選択肢の中から職業や趣味を自由に選択しています。男らしさや女らしさなどにこだわらず、やりたいことを自由に選択することが生きやすさにもつながります。

男女の枠を超えた多様な性

全ての人々が体のつくりだけで単純に男女に区別できるわけではありません。外見上男性に見えても心は女性の人がいれば、その逆の人もあります。また、恋愛対象が同性の人もあります。男女どちらもはっきり区別できない性を持った人が、自分の性や社会に居心地の悪さを感じることもあります。社会の理解の無さ、正しい情報の不足、男らしさや女らしさという思い込みなどが、少数者の人が生きづらさを感じる原因の一つとして挙げられます。男女という枠組みをもっとゆるやかに持ち、その人個人の生き方を理解・尊重し、ともに生きていくことが求められています。そのためにも正しい情報を得て、適切な配慮と理解を示すことが大切です。

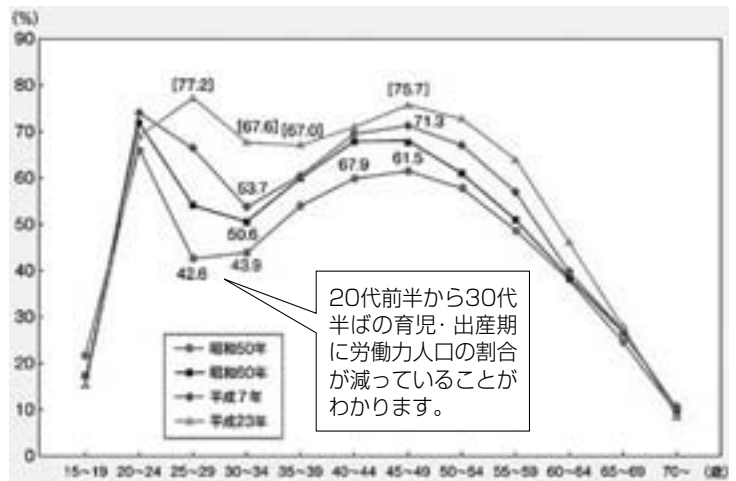


産むも自由、産まぬも自由

性のあり方や職業選択の自由があるように、出産なども本来は自由に選択できます。子どもを産むか産まないか、産むならば時期はいつか、何人産むかなどの選択は家族で話し合ったうえで、女性の心身の負担などもよく考え、女性自身が責任を持って決定することが大切です。

しかしながら、女性が仕事を続けたくても出産を理由に仕事を辞めたり、変更を強いられることも少なくありません。下図に見られるいわゆるM字カーブを見ても、少しずつ改善されてはいますが、いまだに出産を機に退職している人が一定数いることがわかります。育児休暇後に同じ職場で働き続けることも、いったん仕事を辞めて再就職することも、産んだ後は専業主婦として家事や育児に専念することも、本来は自由に選択できるべきです。働き続けながら子育てができる環境づくりには、社会、職場、家庭が一斉に協力し合うことが不可欠です。

女性の年齢階級別労働力率の推移



- (備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」より作成。
2. 「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合。
3. 平成23年の[]内の割合は、岩手県、宮城県および福島県を除く全国の結果。

資料：男女共同参画白書 平成24年版

多様な生き方、多様な性が認められる社会へ

働く女性が増加し、夫婦共働きの家庭も多くなっています。家庭で家事や育児を担う男性も増え、働き方や家族構成などによって、家庭環境も多様化しています。多数者も少数者も理解・尊重しあい、自分とは違う他者のあり方を理解し認めていくことで、誰もが生きやすい社会に一歩ずつ近づいていくのではないのでしょうか。